

令和4年度子供・若者育成支援強調月間
第38回 東伊豆町青少年主張発表大会

発 表 文 集

と き：令和4年11月19日（土）

9時30分～12時00分

ところ：東伊豆町役場1階 大会議室

発表者：町内小中学生の代表、町内在住の高校生

主 催：東 伊 豆 町

東伊豆町教育委員会

東伊豆町青少年健全育成会

後 援：東伊豆町PTA連絡協議会

東伊豆町青少年問題協議会

協 力：稲取高等学校ボランティア部

静岡県青少年対策本部長／静岡県青少年育成会議会長
静岡県知事 川勝 平太

本日、東伊豆町において、令和4年度子供・若者育成支援強調月間第38回東伊豆町青少年主張発表大会が開催されますことを心からお慶び申し上げます。また、日頃から新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら、子供・若者の健全育成や支援活動に積極的に取り組まれている皆様の御尽力に対し、改めて感謝申し上げます。

本県では、「富国有徳の美しい“ふじのくに”づくり」を県政の基本理念に掲げ、県民幸福度の最大化を目指し、人づくり、富づくりに取り組んでいます。とりわけ、子供や若者の健やかな成長は、県民の願いであり、子供や若者が「生きる道」を見出し、「有徳の人」として歩めるよう、適切な支援を行うことが重要です。そのために、「地域の子供は地域の大人が育てる」という決意の下、家庭・学校・地域・職場がそれぞれの役割を果たし、連携を深め、互いに学び、支え合う教育を推進しています。

コロナ禍を契機としたICT化の急速な進展により、人々の生活は大きく変化しています。例えば、テレワーク、オンライン授業の広がり、非対面での仕事や勉強が可能となる、などの便利さをもたらしました。その一方で、対面での交流機会や体験活動の減少、ネット依存・ゲーム障害といった課題も懸念されています。また、引き続き、ニートやひきこもり、不登校、貧困、児童虐待、ヤングケアラーなど、複雑な問題を抱えた子供や若者への支援も推進していく必要があります。

こうした課題に対応するため、県では「ふじのくに若い翼プラン—第4期静岡県子ども・若者計画—」の下、子供たちの成長と自立に向けた支援はもとより、困難を有する子供や若者、その家族への支援、さらには、子供が安心して生活できる環境、地域づくりを推進しています。

取り巻く環境が大きく変化し、社会に対応する力が求められている今だからこそ、“ふじのくに”の若人が「生き抜く力」を身に付け、夢に向かって自らの翼で羽ばたいていけるよう、県や市町のみならず、地域住民団体等が連携・協力し合い、一体となって取り組むことが重要です。まさに地域ぐるみ・社会総がかりの教育が求められています。全ての子供・若者がかけがえのない存在として誇りと自覚を持ち、「有徳の人」に成長していくために、引き続き、育成支援活動に携わる皆様をはじめ、県民の皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会を契機に、県内各地において社会総がかりの子供・若者育成支援活動が、ますます活発に展開されますことを祈念いたしまして、メッセージいたします。

第38回 東伊豆町青少年主張発表大会 目次

1. 開 会 の こ と ば 東伊豆町教育委員 金田 かなみ

2. あ い さ つ 東伊豆町長 岩井 茂樹

3. 発 表

☆小学生の部

- ・子供たちの未来のためにできること … 熱 川 小 学 校 6年 木田 真奈羽 (P.1)
- ・平 和 な 暮 ら し を 守 り た い … 稲 取 小 学 校 6年 鈴木 莉音 (P.2)

☆中学生の部

- ・左利きとユニバーサルデザインの重要性 … 熱 川 中 学 校 3年 梅 野 強 (P.3)
- ・持続可能な世界を目指して … 稲 取 中 学 校 3年 鈴木 奈都菜 (P.4)

☆高校生の部

- ・言 葉 が 持 つ 力 … 稲 取 高 等 学 校 1年 八代 勇渡 (P.6)
- ・すすむ高齢化を見据えて … 下 田 高 等 学 校 1年 進藤 寧緒 (P.8)
- ・校 則 の 大 切 さ … 伊東商業高等学校 1年 山本 ゆりか (P.9)
- ・SNSを正しく使うには … 伊 東 高 等 学 校 2年 清水 朝成 (P.10)

☆歴代発表者 (P.13～P.20)

4. 講 評 東伊豆町教育長 横山 尋司

5. 賞状及び記念品授与 東伊豆町長 岩井 茂樹

6. 閉 会 の こ と ば 東伊豆町青少年健全育成会
熱川地区連絡協議会会長 森田 勝政

子供たちの未来のためにできること 熱川小学校 6年 木田 真奈羽

私は、この夏、テレビで悲しいニュースを何度か見ました。それは、「親が車の中に子供を置いていき、熱中症で子供が亡くなってしまった。」「親が出かけるために、子供を家に置いていき、エアコンをつけずに熱中症で亡くなってしまった。」というものです。私はこのようなニュースを見ると、本当にいやな気持ちになります。二・三歳の小さな子が亡くなってしまふなんて本当に悲しくて、朝からそのような暗いニュースを見たくないです。

そこで、私は、どうして車や家などに子供だけを置いていってしまうのか。どうしたらそのような事件が無くなっていくのかについて考えてみました。

なぜ、車の中や暑い部屋の中に子供を置いていくのかについて、理由として考えたことがいくつかあります。一つ目は、家族や友達との話に夢中になりすぎて置いていってしまうのではないかとということです。

二つ目は、出かけるのに子供を連れて行きたくないのではないかとということです。三つ目は、子供を連れて行くと、泣いたり、かんしゃくを起こしたりしてうるさくしてしまい、周りの人たちに迷惑をかけてしまうと考えていること。そして、四つ目は、親が、自分のことしか考えていない。自分のことで精一杯だということです。

このように、置いていかれる子供のことをよく考えずに、親の都合で、車の中や暑い部屋などに置いていってしまうのではないかと考えました。

そこで、どうしたらこのようなことが無くなるか考えました。私が考えた一つ目の方法は、親せきの人に預ける方法です。親せきであれば、頼ることができるし、信頼できるので預けても安心して出かけることができるからです。

それでも、中には頼れる親せきが近くにいない人もいます。そういう人は、ベビーシッ

ターさんや子供を預かる仕事をしている人に預ける方法が良いと考えました。しかし、ベビーシッターさんは都会には沢山いるようですが、東伊豆町のような人口の少ない町では、なかなか見つからないようです。

そこで、頼れる人がいない人たちでも気軽に子供を連れて行けるようなところや相談できるところを作れば良いと考えました。

調べてみると、東伊豆町にもファミリーサポートセンターという制度があり、子育て中の人が、仕事や急な事情で子供の面倒を見ることができないときに、預かってくれるそうです。会員登録しておいて、困ったときに依頼すると、預かることができる人に紹介してくれるそうです。

私は、今回調べてみて、初めてこのような制度があることを知ったので、もっとたくさんの人に知らせて、多くの人が利用できるようになったら良いなと思いました。

また、学校の社会科の授業で、「子育て支援の取り組み」について学習しました。その中で、お年寄りと子供たちが一緒に遊んで、お互いが楽しく過ごしている施設があることを知りました。その施設では、中学生や高校生のボランティアの人も、協力していました。

私たちの東伊豆町でも、お年寄りと小さい子供たちが一緒に集まって、遊んだり交流したりできるような施設や公園などの工夫ができると良いと思います。

私の家の近所には、二歳の男の子がいます。赤ちゃんの時は、お母さんが抱っこしても泣き止まなくて、お母さんが困っていることがありました。でも、そのお母さんが外で赤ちゃんを抱っこしていると、

「どうしたの？」

と声をかけてくれたり、

「可愛いね。」

とあやしながら、抱っこを代わってくれたりする人がいたそうです。そのお母さんは、

「お父さんが、仕事に行っていて家にいない時間だったから、近くに助けてくれる人がいて、本当に助かったんだよ。」

と話していました。私が、男の子と遊んでいるときにも

「助かるよ。」

「一緒に遊んでくれてありがとう。」

「遊んでくれるお姉ちゃんがいて、喜んでくれるよ。」

と言っていました。私の住む東伊豆町には、このように、近所の人たちのつながりがあって良かったと思います。

小さい子供を死なせてしまった人たちの身近にも、声をかけたり助けたりしてくれる人がいれば、子供たちの命が助かったのではないかと思います。残念な気持ちになりました。

暗い事件が起こってからでは遅いので、一人で考え込まずに身近な人に相談し、助け合って、小さい子供たちの命が奪われるような悲しいニュースが無くなって欲しいです。

そして、私は、小さい子が好きなので、これからも地域の人に声をかけて、少しでも、地域の人たちの役に立っていきたいと思います。



平和な暮らしを守りたい 稲取小学校6年 鈴木 莉音

夏休み中の出来事です。私は祖母の手伝いで畑に来ていました。いつも通りにラジオをつけ、畑仕事を手伝っていると、ラジオから一人の老人の声が聞こえてきました。その声の持ち主は、八十代の女性で、子供のころに戦争で命を落としかけた人でした。それは今から七十年ほど前のことだそうです。ある日突然、大きな爆発音とともに家が燃え始め、彼女は、命からがら家を飛び出したそうです。空を見上げると、目の前には、アメリカ軍の

爆撃機が姿を現しました。彼女は急いで別の建物に避難しました。安心して腰を下ろした矢先、ミシミシと聞こえる音を耳にしました。不安に感じた彼女が再び、その建物から飛び出した直後、背後からは建物が崩れ去る音が聞こえ、燃えさかる炎がその建物を包み込んだそうです。この話を聞いたとき、真夏の日差しを浴びていたはずにもかかわらず、私は背筋が凍るような感覚を覚えました。

今、私たちが暮らす日本は、戦争はなく、平和な国になりました。しかし、世界中を見渡せば、今なお戦争で苦しむ人々が暮らす国もあります。私は、ラジオで話をしていた女性のように、戦争で怖い思いをしたことはありません。でも、その女性も怖い思いをしたかったわけではないと思います。今も戦争の恐怖におびえる人々も、また、戦争を望んでいるとは思えません。

どうすれば悲惨な戦争を無くすことができるのでしょうか。そのためには、何が必要なのでしょうか。考えているときに思い出したのが、担任の先生がおっしゃられた言葉です。先生は普段、冗談ばかり言って、みんなを笑わせている先生です。ある日、そんな先生が珍しく真剣な表情で、「人を許す心が大切です。」とおっしゃられました。「人を許す心」というのは、過ちを犯してしまった人を憎むのではなく、なぜ、そうしてしまったのか、自分はどうすべきだったのかを考え、お互いに理解していくことだとお話しされました。また、小さな過ちであれば、「大丈夫だよ。」と、言葉をかけ、許していくことが大切だともおっしゃっていました。

このお話は、身近なところではもちろん、国どうしが争う戦争にも当てはまるのではないのでしょうか。最近、ニュースを見ていると、ロシアとウクライナの戦争について目にする事が多くあります。この戦争が起こった背景には、歴史的な問題や経済的な問題があるようです。しかし、戦争に発展する前に、お互いの国が「許す心」をもつことができれば、この戦争は起きなかったのではないかと、すぐ

に終わらせることができたのではないかと思います。また、ニュースを見ながら、あらためて、日本は平和な国だと実感しています。日本では、多くの人が、食事に困ることもなく、勉強をしたり、遊んだりすることができます。それは本当に幸せなことなんだと感じています。

戦争を無くしていくために必要なことは、「許す心」をもつことだと考えました。「許す心」を世界中の人々がもつことができれば、世界から戦争は無くなり、世界中の人々が平和で豊かに暮らすことができるようになります。今の私たちには、戦争を止めることや戦争に苦しむ人々を助けることはできません。ただ、平和な国、日本に生まれたことに感謝し、「許す心」の大切さを理解しながら行動していくことは、今の私たちにもできます。争いは、人の心が生み出すのです。友達とのいざこざや家族とのけんか、これらも相手を「許す心」があれば起きませんし、起きたとしてもすぐに解決することができます。私たちの町、東伊豆町には、一万人以上の人が暮らしていますが、そこでも同じことが言えるのではないのでしょうか。平和な町にしていくことが、平和な国をつくり、平和な世界をつくっていくのだと思います。まずは、私たちの身の回り、みんなが平和に暮らせる社会をつくっていくことが大切です。その積み重ねが、ラジオで話をしていた女性のような人を生み出すことなく、みんなが笑顔で平和に暮らせる世界をつくっていくのだと信じています。



左利きとユニバーサルデザインの重要性 熱川中学校3年 梅野 強

みなさんは何利きですか？また、利き手で不便に思ったことはありませんか？

私は、左利きです。私はよく、「左利きって、色々有利そうだね。」と、言われます。おそらく、左利きでスポーツをやっている人は共感できると思いますが、僕はその言葉があまり好きではありません。なぜなら、僕の経験上、左利きは、必ずしも有利というわけではないからです。

例えば、私の所属していたソフトテニス部では、左利きのサーブは右利きの人に対しては有利です。しかし、それは左利きの人には右利きのサーブは有利ということにもなります。このように考えてみると、左利きが必ずしも良い条件ではありません。

逆に左利きは日常生活で不便なことが多くあります。世の中のものは、ほとんどが右利き用にできています。ペットボトルのふたやはさみ、ドアの取っ手や駅の自動改札機など、様々な場面で不便だと感じます。ボールペンはペン先のボールが上手く回らず、扇子はあおぐたびに閉じていきます。また、食事のときは、毎回隣の人に肘が当たってしまいます。そのたびに、

「大丈夫だよ。」
と言ってはもらえますが、なんだか申し訳ない気持ちになります。一部のスポーツで左利きの有利さだけを大々的に伝えているため、困難ある生活をしている私たちをうらやましがるという構図ができあがってしまっているのかもしれません。

そこで、気になって利き手について調べたところ、利き手は遺伝的な要因の他に環境的な要因で決まるとありました。

遺伝的な要因は、母親のお腹の中にいる胎児の頃に、指しゃぶりをさかんにする同じ指があるという研究結果が出ているように、生まれる前から使いやすい手が決まっている状

態です。それと対照的な環境的な要因は、幼少期の過ごし方における使用頻度のことです。小さな子どもは、利き手という意識はなく、どちらの手も使います。二歳ぐらいになると、親のやっていることを真似しようとする行動がみられ、親が正面にいと、親の持っている手を鏡のように真似しようとするため、親が右利きであると子どもは左で物を持ち、左利きでないかと思わせる行動をとるそうです。四歳頃になると利き手は固定されますが、それまでの環境は多分に影響します。幼い頃に右手を骨折してギプスをはめたりしていると、左手を使うことが多くなり、そのまま左利きになる例も報告されています。そのため、右利きも左利きも、小さな子どもが意思をもってなるわけではありません。しかし世間では、子どもの左利きを右利きに直そうとするなどの話も聞いたことがあり、実際私も多少訓練をした記憶があります。不便な生活をさせたくないという親の愛情があるということは十分わかっています。問題となるべきところは、左利きで生まれたことや生活することではなく、少数派である左利きにとって過ごしにくい社会の仕組みがあるということだと考えています。

同じような悩みをもっている人もたくさんいるはずです。詳しく調べていくと、すぐに出てきたのは、ユニバーサルデザインという言葉です。

ユニバーサルデザインとは、性別や年齢、能力の違いにとらわれずに、多くの人が利用しやすい、製品や設備などのことを指すそうです。その中には、左利きの人でも使いやすい道具もありました。はさみは刃合わせが逆になっていて、定規の目盛りは逆からふってあります。ワインのコルク抜きも逆巻きに作られています。

また、ユニバーサルデザインには、視覚障がい者のための点字のついたシャンプーや、海外の方にわかりやすく伝えるためのピクトグラムなど様々な人に情報を理解してもらう工夫があると知りました。これらの情報を必

要とする人は、ごく少数しかいません。その少数の人たちにも正確な情報を伝えようと社会は動いていることを実感しました。

左利きの人は世界で約十パーセントしかいません。視覚障がいとなるともっと少なくなるはずです。日本にある看板を外国の方が目にする機会だって頻繁にあるわけではありません。しかし、そんな少数の人たちのために行動してくれる人がいると知り、すごくうれしく感じました。これをきっかけに、僕は自分でも何か行動できるようになりたいと思いました。

僕は、左利きの悪いところだけ見ようとするのではなく、左利きだからこその良い部分を見ることが大切だと思います。そのような考え方が全ての人たちに生まれていけば、少数しかない困っている人達や苦しんでいる人達が、生きやすい社会になると信じています。

「僕は左利きなんだ。左利きは、こんな良いところがあるんだよ。」

と胸を張って言えるように毎日の生活を少しずつ変えていこうと思います。



持続可能な世界を目指して 稲取中学校3年 鈴木 奈都菜

世界に目を向けてみると、貧困や紛争などの問題が起こり続けています。また、その他にも気候変動の問題、そして感染症の問題など、数え切れないほどの課題に私たちは直面していることに気がつきます。このような問

題を抱えながら生活をする私たちは、はたして幸せであるといえるのでしょうか。

近年、ニュースや授業などで、「SDGs」という言葉をたびたび聞くようになりました。

「SDGs」というのは「持続可能な開発目標」のことで、現在、世界中にある環境問題、差別、貧困、人権問題といった課題を、二〇三〇年までに解決していこうという計画のことです。十七の大きな目標と、目標を達成していくための、百六十九のターゲットで構成されています。「持続可能」というのは、「何かをし続ける」ということで、目標を達成していくことが、私たちの幸せな暮らしにつながります。

十七の目標は「一、貧困をなくそう」から始まり、「十七、パートナーシップで目標を達成しよう」まで、地球を守るため、世界中の人々が幸せに暮らすための目標が示されています。これらのなかで、私はいくつかの目標に注目しました。

最初に注目したのは、五つめの目標である「ジェンダー平等を実現しよう」です。二〇二一年に行われた世界経済フォーラムで報告された「ジェンダー・ギャップ指数」での日本人のスコアは、百五十六カ国中、百二十位で、主要七カ国中、最下位という結果が出ました。この指数は、教育や政治、賃金などの様々な観点から男女差を比較したものです。完全に男女が平等である状態を百パーセントとしたとき、日本は六十五パーセントでした。このようなことから、日本ではまだジェンダー平等の実現が難しいとされています。

私は仕事や育児をする上でのジェンダー平等について考えてみました。

育児を積極的に行う男性のことを指す、「イクメン」という言葉があります。ジェンダー平等の視点で考えると、「イクメン」という言葉に違和感を覚えてしまいます。

なぜなら育児を積極的に行う女性のことを指す、「イクメン」のような言葉は聞いたことがないからです。また、「イクメン」の男性を取り上げたテレビ番組を見たことはあります

が、育児を行う女性を取り上げた番組は見たことがありません。これらのことを考えてみると、「イクメン」という言葉は、父親が仕事、母親が育児や家事を行う家庭を前提にしているからこそ存在する言葉だと思います。このように日本では、いまだに男性は仕事、女性には家庭といった思考が強いように思います。

仕事をすることや育児をすることが、男性や女性ということに関係のない世の中、仕事や育児を誰がしていても、それが当たり前である世の中。このような世の中になっていくことで、「イクメン」が当たり前のことになり、この言葉がなくなる社会を「SDGs」の目指す二〇三〇年までに作って行かなければならないと思います。

また、私の家庭のジェンダー平等について考えてみました。私の家族は両親共に働いています。家族のために掃除や洗濯などの家事もしています。両親共に働くという形はジェンダー平等とも考えられます。ただ、とても忙しく、仕事や家事が大変であることも事実です。私の家庭のジェンダー平等を持続していくためには、周りの協力も必要になると思います。例えば、家事を手伝ったり、身の回りのことは自分で行ったりと、私のできることを最大限行うことで、父や母の負担を減らすことができます。こういった周囲の協力により、負担の軽減をしていくことが大切だと思います。家族のために一生懸命働いて、家族のために一生懸命家事をしてくれる両親にとっても感謝しているからこそ、その感謝を行動にも表現し、私の家庭のよりよいジェンダー平等の形を築いていきたいです。

次に注目したのは、十番目の目標である「人や国の不平等をなくそう」です。現在、多くの差別が存在すると思います。先ほど話したジェンダーにおいても差別がありますし、人種差別や職業差別などもあると思います。

世の中には、たくさんの価値観や考え方を持った人がいます。百人いれば百通りの人生や生き方があるので、価値観は人それぞれあるのが当然だと思います。ですが、その価値

観の違いから、差別が生まれていることも事実です。なぜ差別はなくならないのでしょうか。差別を生んでいるのは、それぞれの「違い」にあるのではなく、「無知」や「無関心」にあると私は考えます。

例えば、体にハンデのある方がいたとします。ハンデのある部分にも、人それぞれ違いがあり、人の手助けの必要な方もいます。また、社会では「健常者」と呼ばれる私たちも、人の助けや支えがなければ生きていくことができません。人の助けが必要という点では、障害のある人もない人も同じだと思います。誰にでも助けは必要であるということは、多くの人が理解していると思います。ですが、ハンデがあるという理由で手助けすることについて、その手助けを嫌がる方もいるということまで理解している人は、決して多くないと思います。これを知らずに手助けをすると、手を出された相手は、差別されていると感じてしまうこともあります。

一人一人が違うからこそ、一人一人の違いを正しく理解すること。相手のことを常に考え、一人一人の気持ちや考えに寄り添うこと。その上で、必要となる手助けを必要な場面ですること。これらを互いに行うことが、差別をなくすことに繋がるのではないのでしょうか。だから私は、これからも差別のことについてたくさん学び正しい知識を身につけ、相手の思いに寄り添った生活をしていきたいです。

私は、「SDGs」について、二つのことを考えてみました。「SDGs」には、まだまだ多くの達成されるべき目標があります。持続可能な世の中にしていくためにも、私たち一人一人が、「SDGs」「持続可能な開発目標」を知り、達成するための行動をしていくことが必要です。この世界で暮らす一人として、私は持続可能な地球を作るための努力をこれからも続け、世界中の人たちとともに、素晴らしい未来を作っていきたいと思います。



「言葉」がもつ力 稲取高等学校1年 八代 勇渡

みなさんは誰かに応援されたり、励まされたりしたことはありますか。誰かが応援してくれると、とても嬉しく、力になります。例えば、大事な試験の前の「がんばれ」の言葉や、きつい練習の中でかけられる「ファイト」などの言葉もそうです。僕も、部活動の際によく励ましの言葉をもらっています。

では、なぜ応援されたり、励まされたりすると嬉しくなるのでしょうか。それは、言葉には大きな力があるからだと思います。しかし、逆に捉えれば、それだけ簡単に人を傷つけてしまうこともあるということです。では、言葉はどのように使えば良いのでしょうか。

僕は、中学生のときにソフトテニス部に所属していましたが、あまり良い結果を残すことができないまま部活動を引退してしまいました。そしてこの4月に高校に入学し、どの部活動に入ろうかと迷っていました。僕はもとと走ることが好きで、自分の得意なことを活かしたいと思ったので、陸上部に入部しようと決めました。そこから高校での部活動生活が始まりましたが、そこで僕は、あらゆる場面でカルチャーショックを受けました。

その中でも大きく異なることのうちの一つは、先輩と後輩の上下関係です。それは、自分の想像よりもさらに厳しいものでした。まず、先輩より先に活動場所へ行き練習の支度をするのは当たり前で、1年生が遅れて先輩方に支度をさせてしまうようなことをした日

にはとても怒られます。そして、それ以外に大切なことは、先輩よりも先に大きな声で挨拶をし、何か助けてもらったときには必ずお礼をすることです。部活動が始まる前の「こんにちは!」「おはようございます!」や、部活動が終わったの「お疲れさまです!」をはっきりと伝え、先輩に対して失礼がないように常に気を付けています。

1年生として入部してすぐには、3年生にとって最後の大会となるインターハイが控えていて、1年生は全力でその先輩方をサポートします。僕は、部活動中に「ファイト!」と大きな声を出し、雰囲気盛り上げられるように努力しました。そしてインターハイが終わり先輩方が引退してしまうと、自分たちが初めて出場する大会である新人戦に向けて練習を開始します。しかし、引退した後でも、陸上部の先輩方は部活動に顔を出して一緒に練習してくれたり、優しく声を掛けてくださったりします。僕はそんな先輩方をとても尊敬しています。先輩方から「新人戦頑張れ!」「県大会に行けるように頑張れ!」と言ってもらえる度にとてもやる気が出て、辛い練習でも頑張ることができます。

その一方で、自分がうまくいかず悩んでいるときには、先輩方が掛けてくださるその言葉がプレッシャーになってしまうこともあります。それは、その時の自分自身がもつ不安や葛藤が原因となっているのであって、先輩方がかけてくださった言葉は何も悪くありません。悪意をもった言葉ではなかったとしても、受け取る人の捉え方によってその意味が変わってしまう。これは、「言葉」がもつ大きな特徴ではないでしょうか。

しかし、自分に対してプラスにはたらく、「言葉」のとても大きな力を実感する出来事がありました。新人戦に向けて練習を行い、ついに迎えた本番。その日はとても朝が早く「この日のために頑張って練習をしてきたんだ」と考えるととても緊張し、このままでは実力をだしきれないのではないかという不安に襲われました。そう思っていた矢先、新人

戦の会場まで3年生の先輩が足を運んでくださり、一緒にアップをしながら僕の緊張をほぐしてくれました。「大丈夫大丈夫!」「勇渡なら大丈夫さ!」。こういった先輩の言葉はとてもありがたく、勇気と力をもらうことができました。

そして、自分の出る種目の招集の時間になりました。同じ陸上部の仲間が県大会への切符を掴んでいる中、「本当に県大会に出場することができるのだろうか」と考えてしまう自分がいました。本当に自分に自信を持つことができず、考えること全てがネガティブになっていました。無理やり笑顔になろうとしても上手く笑うことができません。そんな僕に先輩が再び声を掛けてくださいました。「勇渡なら大丈夫!」「自分の今の全力を出せば絶対に行ける!」。僕はこのときの先輩の言葉を今でも鮮明に覚えています。自信がみるみるうちに湧いてきました。そして、その言葉のおかげで、この言葉をもらったことで今まで自分にあつたマイナス思考がきれいさっぱりとなくなり、僕は自己ベストを記録し県大会への切符を掴むことができました。先輩や先生からの「言葉」、部活のメンバーからの「言葉」のおかげで今回の新人戦で良い結果を残すことができたのだと思います。

「言葉」には自分に自信や勇気をくれる大きな力があります。そして、自分から相手に勇気や自信を与えることもできます。一方で、相手を意図せず嫌な気持ちにさせてしまうこともあります。僕は、これから先も、「言葉」がもつパワーを心に留めながら、相手にも勇気や自信を与えられるような言葉を投げかけたいと思います。



進む高齢化を見据えて

下田高等学校 1 年 進藤 寧緒

現在、私たちの住む東伊豆町では高齢化が進行しています。令和二年十月時点で東伊豆町は高齢化率が四十六%で日本の高齢化率は約二十九%であり、約 1.5 倍高く高齢化率が進んでいる状況です。また、二千二十五年には超高齢社会となる試算があり、高齢化がますます進む見込みです。

では、高齢化が進むとどのような問題が生じてくるか考えてみました。大きくは二つあると思います。一つは、国や各地域の経済の低迷が起こればと考えられます。文字通り若い人の割合が減り、高齢者の割合が多くなるので、仕事をする人口が少なくなり、経済活動が低下します。そうすると国や各地域の経済が苦しくなり、生活するためのインフラ等の環境整備や最も心配される医療費問題等が起こればと考えられます。現在では社会保障費は約三十五兆円で、超高齢社会となる二千二十五年には約五十四兆円になると試算されています。これにより国や各地域の財政が圧迫され、環境整備・教育費・医療費等様々な問題が起こればと考えられます。

二つ目は、病院や医師・看護師不足問題です。高齢になると体調不良や免疫機能の低下がどうしても起こります。それにより、病院に通院する人が増加し、医師や看護師の負担が大きくなり、地域医療がひっ迫することも考えられます。

では、こうした問題に対してどのようにしていったら良いのでしょうか。まずは東伊豆町の人口に着目してみました。東伊豆町が出している人口ビジョンの資料によると、現在東伊豆町には約一万二千人の方が住まわれています。ですが、約二十年後の二千四十年には、約半数の人数七千人にまで減少してしまうと試算されています。原因は未婚率の上昇や町外への転出があると思います。先ほどの資料のアンケートによると、結婚する予定が

ないと考えた若者は約三割という結果が出ています。その理由としては、経済的な不安や結婚する必要性を感じていないなどがありました。未婚率を抑えるためには、出産・育児を安心して行える体制を整えることが必要です。それには結婚をして東伊豆町に住む場合は、結婚祝い金や生活支度金として、地域で利用できる割引券等を発行するなど、結婚を地域で盛り上げ歓迎する雰囲気が必要だと思います。結婚しやすい環境が整えられれば、将来的にも出産する機会も増加し、人口も増え、高齢化率の減少にもつながると思います。また、若者を東伊豆町に住んでもらうために、観光産業でもっと東伊豆をアピールして雇用を増やすことが必要と考えます。それには私たちの今までの先輩方も、たぶん私たちも進学をして一度は他の地域に住むこととなります。その時に、長期休みを利用して友達を東伊豆に連れてきて、この地域の素晴らしい観光名所をいっぱい教えたら、その友達が大人になったときにデートでも、家族旅行でも、観光客として戻ってきてくれるかもしれません。友達を連れてきたら、町から補助金がでたら、多くの友達を連れてこられると思います。テレビやラジオ・ソーシャルネットワークでコマーシャルを打つことも大切ですが、学生の中から素晴らしい東伊豆町をアピールできたら、観光産業が盛んになり雇用も増え、また東伊豆町の経済の起爆剤となり財政が豊かになると思います。そうしたら、潤った財政で環境整備や結婚・出産、育児の分野でもより手厚く住んでいる人たちのサポートができると思います。雇用もサポートも充実していれば全国からでも、近隣地域からでも若者が東伊豆町に住むようになり、少子高齢化対策にもなると思います。

二千二十五年に超高齢社会を迎えようとしている今、私たちにすぐに何かできることはないかもしれません。ですが、自分の考えや想いを、周囲や町に伝えることで少しでも少子高齢社会に歯止めがかかると思います。私たちの明るい東伊豆町にするため、一人ひと

りが身近な問題として捉え、みんなで考え協力して取り組んできたいと思います。



校則の大切さ

伊東商業高等学校 1 年 山本 ゆりか

皆さんは校則について、どのようなイメージを持っていますか？

本来、校則とは「児童生徒が健全な学校生活を営み、より良く成長、発達していくため、各学校の責任と判断の下にそれぞれ定められた一定の決まり」と文部科学省は定義しています。

校則は学校生活を送る上でとても大切なものです。生徒の将来を守るためにあるものであり、私たちは将来、様々な進路を選択していくため、校則を守らなければいけない責任があると思っています。

ただ、厳しいルールだけが生徒のよりよい成長、発達に繋がるとは思いません。また、校則についてのニュースを見て考えることがあったので校則について発表しようと思いました。

例えば、高校によって校則が少ない学校があります。その一番のメリットは自由です。自由があることで生徒は明るく楽しさが感じられる学校生活を送れると思います。校則が厳しすぎると学校でも生活に対してストレスを感じてしまい、場合によっては厳しすぎることが非行につながってしまう可能性もあると思います。

また、最近私が見たニュースの中で気にな

ったのが、「生徒指導提要が 12 年ぶりに改訂」されたことで、男女に差がある校則を変えたという内容です。いわゆるブラック校則の見直しについてです。

今では世間の理解も広がってるトランスジェンダーの存在。ただ、それでもまだすべての人が理解しているわけではなく、偏見を待った方もいます。それによってトランスジェンダーの方々は自由に生きられない、縛られ周りの目を気にして生きていかなければなりません。

私はブラック校則も偏見側の意見を待っている人と同じではないかと思っています。女子はスカート、男子はズボンの制服。髪型でいえば女子は肩の長さまで、男子は耳の長さまで。なぜこのように男女の差があるのでしょうか。

次に気になったニュースは、ウクライナから避難してきた少女が日本の学校に行くという内容でした。学校に行くときの様子の中でピアスをはずしている場面が取り上げられていました。SNS では「ピアスはその国の文化なのだからはずさなくてもよいのでは」という言葉がありました。

また、もともと髪の毛が茶色い女子生徒が教師から黒染めをしてきてと注意されました。親が言っても信じてもらえず、何度も何度も注意され女子生徒は不登校になってしまいました。他にも、兵庫県のある中学校では耳に頭髮が 1 ミリでもかかると校則違反となり、全生徒の前で謝罪し、その場で教師に怒鳴られるそうで、男子生徒はその姿を見られ周りからも笑われ不登校となってしまいました。

生まれつきや文化の違いで周りとは少し違う容姿をしていることを否定してしまう内容の校則が、生徒たちの将来の何に役に立つのか私にはわかりません。男女に差がある校則または男子と女子の制服が性別で決まる校則も私たち生徒たちの将来の何に役立つのかわかりません。

これらのニュースに対し「非行防止」つまり「子供を思った判断」や「子供の将来を思

ってしたこと」などの意見を目にしました。

しかし、その行為は子供本人の意思や人権を無視しています。子供のためだとしても子供を傷つけてしまうことはあってはいけないと思っています。

SNSで「厳しい校則を求める保護者や教育関係者は多いです。校則が厳しければいじめなどが起きず安心できる。自由な校風だと荒れやすいので心配という保護者の声を聞いてきました。しかし、ブラック校則を無くそうというプロジェクトの10代から50代までの男女2千人に調査した結果ではイメージと反対の結果が出ました。つまり、校則指導が厳しい学校のほうがいじめは起きやすかったのです」という記事を見ました。

いじめが起きる原因は何でしょうか？

その一つとしてコンプレックスを隠せないという声をよく聞きます。私たちは大人子供関わらず、見た目で判断する事が多いです。大人の方々は派手な格好する子より落ち着いた格好をする子に対して良い印象を持っているイメージがあります。私たち子供でも大人とは違った基準によって見た目で判断してしまう子も多くいます。

SNSでも見た目に関して、心無い言葉を見かけることも多々あります。このような状況が子供の世界でも、絶対無いとは言い切れません。

コンプレックスを持っている子は、学校では隠せない子もいます。そのような子は、自分は周りからどう思われているのか、周りを気にしながら学校生活を送っているでしょう。そのような子どもたちを守ることができる校則が必要だと思っています。

私は校則とは生徒のよりよい成長、発達していくためにあるという文部科学省が言っていることもそうですし、児童生徒が安心して楽しく過ごせるように、また、集団行動をする上で仲間との関わり方を学ぶためにあるものだと思います。

子供の全ての自由を奪わず、行き過ぎた校則で悩む児童生徒を助けることができるよう

に、自分がこのような考えをもってをいること広めていけたらと思っています。

学校の先生方は、本来の校則のある理由をしっかりと知り、児童生徒に寄り添い安心して学校生活を送らせて私たちの将来を守ってくれます。私たちは自分の将来のためにも校則を守らなければならないのです。それほど校則とは大切なものなのです。

皆さんでもう一度、校則について深く考えてみませんか？



SNSを正しく使うには 伊東高等学校2年 清水 朝成

私たちは日常生活を送る中で分からないことや知りたいことがあった時、スマートフォンやパソコンなどで、インターネットを使い簡単に調べることができます。

グーグルなどの検索エンジンエンジンの他にツイッター、インスタグラム、フェイスブックなどのSNSがあります。SNSは検索エンジンとは違い、リアルタイムで特定のワードに対する端的な情報を得ることができます。SNSとは、インターネットを通じて人と人をつなげるサービスのことです。SNSを使用する上でのメリットとして、

- ・知りたい情報を得られる。
- ・リアルな声を知ることができる。
- ・交流の場を広げられる。
- ・災害時の情報発信、受信に役立つなどが挙げられます。

また多くのデメリットもあります。

例えば、誹謗中傷、デマ情報、詐欺、炎上
のリスクといったトラブルがあります。その
SNSのトラブルから、自殺をしてしまったり、
いじめが起きてしまうという事例があり
ます。

このようにSNSは、使い方を間違えてし
まうと大きな事件につながってしまうこと
もあります。SNSは匿名でコメントを投稿す
ることができるため、よく考えずにひどい言
葉を使ってしまいがちになっています。な
ので、SNSを使うときには、本当に投稿し
ても大丈夫なのか、読む相手を傷つけないか
などをよく考えてから言葉を選ぶ必要があ
ります。

SNSのトラブルに巻き込まれないよう
するにはどうしたらいいのかといったこと
も考える必要があります。SNSのトラブル
の半数以上には、中高生が関わっている
そうです。私たちのような中高生は、SNS
をよく利用するため、被害者にも加害者
にもなることが多いでしょう。

特に多いのがSNSのやり取りから生
じる友達同士のトラブルです。

なぜそういったトラブルはなくなる
のでしょうか。それは、正しい使い方を
知らず、間違った使い方をしている人
が多くいるからだと思います。私は、
規律やマナーを守る、個人情報を書き
込まない、他人の悪口、誹謗中傷、
噂などは絶対に書き込まない、とい
ったことが正しい使い方だと思います。
SNSで誹謗中傷をする人たちはなぜ
そのようなことをしてしまうのか、二
つの理由が考えられると思います。

一つ目は、匿名性によるものです。
匿名性は個人情報保護の観点では非
常に有効なものですが、中には匿名
ということを悪い方向に利用する
人もいます。匿名だからばれな
いだろう、みんなやっているし大
丈夫だろう、といった安易な考
えから誹謗中傷にあたる書き込
みをする人が多くなっています。

二つ目は、正義感によるものです。
正義感で誹謗中傷をしている人は、
自分は正しい、

悪い人は罰せられるべきだと思
い込んでいるため誹謗中傷をして
いるという自覚がありません。
このように本来評価されるべき
正義感が、悪い方向に進んでし
まうケースもあります。

さらに問題点として上げられる
のはネット依存についてです。
私は学校で行われた、ネット
依存症のスクリーニングテスト
で中リスクと判断されました。
自分ではそれほどとは思
っていませんでした。私の通
う学校全体でもネット依存
症の中リスクや高リスクと
判断される人が多くいま
した。全国的に見てもこの
5年間で倍増し、全国で
93万人と推計されることが、
厚生労働省研究班の調査結
果から明らかになっています。

なぜこのような結果になってしま
っているのでしょうか。私は
インターネットには子供
から大人まで、楽しめる
ものが多く入っており、
のめり込んでしまう魅力
があるからだと思います。
しかし、ネット依存症
になってしまくと、頻
繁に使っていないと不安
になったり、友達とメ
ールなどでのやり取り
をしているときにすぐ
に返信しないと自分
だけ仲間外れにされ
てしまうような恐怖感
を持つようになり、
常にネットを使う
ことになるのだと思
います。ここには
対策が必要です。

このような問題から自分自身
を守る対策として、小中
学校の義務教育の期
間でSNSの正しい
使い方やメディアリテ
ラシーについての授
業などで知識をつ
けるべきだと思います。
早い段階から一人
一人がSNSを正しく
使うことを理解
することで、誹謗
中傷やいじめが
減っていくと思
います。また、
ネット依存症
にならない
ようにする
ために、
ネットの
利用時間
を決める、
ネットを
使わなく
ても楽し
める趣味
を持つ、
そうす
ること
で、ネッ
トから
離れる
ことが
でき、
使っ
てい
なく
ても
不安
にな
らな
いと思
いま
す。

SNSは、私たちの生活に必要
であり、生活の一部とな
っており、なくてはなら
ないものとなっています。
しかし、日常になれば
なるほど、インターネット
には多くの危険が潜

んでいることを理解し、今後、自分が、家族が、ネットトラブルに巻き込まれないようにするために、フィルタリングサービスを使う、家庭内でルールを作るなどといった家族で普段の使い方を考え直す必要があるのではないのでしょうか。

一人一人がインターネットについて正しい知識を身につけることによって、ネット依存症やインターネットに関する問題が減っていく、みんなが楽しく快適にインターネットを使えるようになると思います。

正しいインターネットを利用することは、知識・交流等から人々の生活をより豊かなものにしてくれるものです。可能性が大きく広がることだと思います。それには一人一人が協力していくことが重要であり、きっと良い世界に導いていってくれる事だと思います。



歴代発表者（青少年主張発表大会）

回数		第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回
学校名		昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度
小学生	大川小学校 5 年	稲葉 賢史	後藤 麻衣子	鎮田 泰代	稲葉 恭子	内藤 晴之
	大川小学校 6 年	飯田 瑞穂子	稲葉 美穂子	稲葉 隆行	稲葉 早千江	飯田 めぐみ
	熱川小学校 5 年	小林 千枝	鈴木 理史	川上 竜司	木村 昌弘	藤井 愛
	熱川小学校 6 年	井原 みゆき	森田 綾	島田 浩充	濱野 剛稔	横山 あかね
	稲取小学校 5 年	村木 町子	山田 亜矢子	奈良 有希子	石井 夏菜	雲野 多恵
	稲取小学校 6 年	加藤 郁美	鈴木 美恵子	渡辺 宏	村木 美輝	内藤 美奈子
中学生	熱川中学校 1 年	嶋田 千穂	飯田 瑞穂子	加藤 久美子	加藤 友美	小林 浩一
	熱川中学校 2 年	土屋 いづみ	兼子 まや	飯田 瑞穂子	稲葉 るみ子	加藤 友美
	熱川中学校 3 年	前田 慶子	及川 智恵	稲葉 真紀	児島 涼子	稲葉 美穂子
	稲取中学校 1 年	鈴木 有美子	福岡 慈子	金指 直子	田原 竜也	太田 雅也
	稲取中学校 2 年	山田 幸二	滝 裕子	福岡 慈子	渡辺 奈穂子	田山 麻理絵
	稲取中学校 3 年	堀川 泰代	滝 悦子	平田 洋子	石原 尚子	古屋 桃子
高校生	稲取高等学校	松山 美加	田原 俊介	和田 めぐみ	鈴木 活生	庄司 好男
					土屋 時乃	遠藤 智美
	下田南高等学校					鳥沢 たまき
	伊東城ヶ崎高等学校				大内 佳人	雄谷 隆夫
						三浦 周一郎
	下田北高等学校			鈴木 参日	辻 由美子	加藤 正剛
	下田南(定時制)					
	伊東商業高等学校					
	伊東高等学校					

回数		第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回
学校名		平成 2 年度	平成 3 年度	平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度
小学生	大川小学校 5 年	木村 直樹	稲葉 世里子	稲葉 健太	飯田 多賀乃	横山 美和
	大川小学校 6 年	飯田 剛弘	木村 和加子	山下 優子	飯田 洋一	片山 房子
	熱川小学校 5 年	山本 稚奈	木村 奈津子	小林 真瑛	田神 敬祐	坂田 菜穂子
	熱川小学校 6 年	木村 明人	戸田 景子	木村 浩子	高羽 さやか	太田 恵子
	稲取小学校 5 年	伊東 久恵	鈴木 智和	山田 美保子	鈴木 精一郎	内山 亜紀子
	稲取小学校 6 年	垂井 幸	桑原 加奈子	横山 真理	太田 博之	小池 正治
中学生	熱川中学校 1 年	不二山 千晴	溝尾 祐	不二山 仁美	野澤 留実	鈴木 美菜
	熱川中学校 2 年	土屋 はるか	金指 亮太	豊島 真美	鈴木 佑理	野澤 留実
	熱川中学校 3 年	秋永 美絵	鎮田 泰代	飯田 留美	島田 深志	山本 稚奈
	稲取中学校 1 年	内藤 夕子	小知和 寛子	篠田 知子	鈴木 未奈	古屋 彩花
	稲取中学校 2 年	鈴木 照子	斎藤 立枝	小知和 寛子	花田 知子	遠藤 裕美
	稲取中学校 3 年	田原 竜也	宮原 崇敏	金指 貴子	山田 恵梨子	坂部 千秋
高校生	稲取高等学校	勝間田 秀寿	鈴木 一繁	飯田 仁美	高村 幸邦	飯田 剛弘
		前田 朝子				
	下田南高等学校	石原 尚子				
	伊東城ヶ崎高等学校				土屋 富浩	前野 智恵子
	下田北高等学校				飯田 ひとみ	小知和 寛子
						飯田 めぐみ
	下田南(定時制)					
	伊東商業高等学校					
	伊東高等学校					

回数		第 1 1 回	第 1 2 回	第 1 3 回	第 1 4 回	第 1 5 回
学校名		平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成10年度	平成11年度
小学生	大川小学校 5 年	湯川 貴喜	稲葉 由莉	西尾 雅輝	木村 高德	
	大川小学校 6 年	岡田 真美	稲葉 愛美	稲葉 由莉	星野 健作	山本 茜
	熱川小学校 5 年	中島 亜希子	石森 千春	坂田 佳之	秋永 知南	
	熱川小学校 6 年	横山 隆志	湊 渉子	相沢 祐樹	山岸 みづ紀	山本 紗弓
	稲取小学校 5 年	小野 仁実	米澤 亜弥	佐藤 翠	富岡 加織	
	稲取小学校 6 年	村山 恵美	富岡 志穂美	栗田 里美	内山 浩美	鈴木 友里子
中学生	熱川中学校 1 年	飯田 多賀乃	土屋 美和	山本 力道	久野 麻紀	
	熱川中学校 2 年	稲葉 健太	飯田 多賀乃	横山 宏美	曾我 真奈美	森田 みなみ
	熱川中学校 3 年	嶋田 早紀子	鈴木 美菜	乗松 宏衣	河内 孝樹	佐藤 香里
	稲取中学校 1 年	遠藤 有希子	石垣 ちさと	佐藤 栄美	金指 令枝	内山 浩美
	稲取中学校 2 年	稲葉 いづみ	山口 宏美	上嶋 麻衣子	村木 貴	
	稲取中学校 3 年	桑原 敦子	秋田 真澄	清水 高明	古屋 明日花	村木 貴
高校生	稲 取 高 等 学 校	村木 さやか	須藤 裕美	鈴木 梓	土屋 晋	村上 ゆりこ
	下田南高等学校	金指 純子	内山 加奈子	前田 美佐子	鈴木 千絵	
	伊 東 城 ヶ 崎 高 等 学 校			田中 有希子	五十嵐 広行 高橋 真未	鈴木 愛理
	下田北高等学校	濱野 友加 内山 太恵子	脇田 春啓	野澤 幸恵	湊 浩子	平川 城太朗
	下田南(定時制)	市川 容子	太田 梓			
	伊 東 商 業 高 等 学 校	土屋 健一	高橋 映年	横山 麻子	稲葉 留美	
	伊 東 高 等 学 校				横山 綾子	米沢 知紘

回数		第 1 6 回	第 1 7 回	第 1 8 回	第 1 9 回	第 2 0 回
学校名		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
小学生	大川小学校 5 年					
	大川小学校 6 年	歌田 裕美	稲葉 啓太郎	木村 美穂	木村 佳奈美	稲葉 拓人
	熱川小学校 5 年					
	熱川小学校 6 年	伊藤 梨紗	中村 賢哉	京極 雄大	岩間 康平	中村 駿介
	稲取小学校 5 年					
	稲取小学校 6 年	芹澤 美沙	遠藤 悠子	内山 颯子	鈴木 里咲	山田 瑞季
中学生	熱川中学校 1 年					
	熱川中学校 2 年	梅原 千種	石川 泰希	稲葉 寛美	山本 彩香	高崎 頼
	熱川中学校 3 年	石森 千春	前田 友美	山本 茜	飯田 龍仁	鈴木 雅晃
	稲取中学校 1 年					
	稲取中学校 2 年	中山 美穂	本田 璃菜	八木 厚子	上嶋 紗也加	齊藤 佳穂
	稲取中学校 3 年	黒田 祐介	内山 浩美	鈴木 宏規	石井 三香子	本田 華菜
高校生	稲 取 高 等 学 校	野口 花菜	小野澤 宏太	菊地 恵	鈴木 俊太	土屋 奈菜
	下田南高等学校		山田 佐世		平井 里奈	村上 麻実
	伊 東 城 ケ 崎 高 等 学 校	佐々木 草平	遠藤 あゆみ	太田 裕介	石塚 里沙	星野 千秋
	下田北高等学校	富岡 志穂美	村木 かおり	鈴木 成禎	飯田 宗一郎	千葉 崇幸
	下田南(定時制)					
	伊 東 商 業 高 等 学 校		森田 有希子	富田 さち	前田 尚也	新居 功
	伊 東 高 等 学 校	太田 美佐	金作 美紀	遠藤 央恵	佐藤 舞	秋永 亮

回数		第 2 1 回	第 2 2 回	第 2 3 回	第 2 4 回	第 2 5 回
学校名		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
小学生	大川小学校 5 年					
	大川小学校 6 年	木村 慎太郎	稲葉 大樹	石井 圭介	飯田 夕稀	後藤 隼希
	熱川小学校 5 年					
	熱川小学校 6 年	鈴木 亜実	大兼 ことみ	八木 梨紗	渡邊 里奈	中村 萌
	稲取小学校 5 年					
	稲取小学校 6 年	石井 輝	鈴木 結稀	米澤 茜	村木 恭二	盆子原 茜音
中学生	熱川中学校 1 年					
	熱川中学校 2 年	加藤 郁美	黒田 訓英	有賀 伊久磨	大兼 ことみ	八木 梨紗
	熱川中学校 3 年	市川 加菜	富樫 貴史	石井 光晴	小澤 翔太	木村 沙枝美
	稲取中学校 1 年				米澤 茜	大塩 朝加
	稲取中学校 2 年	塙 麻祐子	鳥沢 香純	宮崎 恵里奈		
	稲取中学校 3 年	森下 泰羽	山田 茉莉花	安森 沙耶	安部 尊諠	田村 彩
高校生	稲 取 高 等 学 校	梅原 麻美	岩崎 里音	竹内 遥香	前川 美悠	大鳥 瑞希
	下田南高等学校	高村 和	上島 麻実			
	伊 東 城 ケ 崎 高 等 学 校	宍戸 沙耶香				
	下田北高等学校	山田 晴美	山田 剛史	横山 美紀		
	伊 東 高 等 学 校 城 ケ 崎 分 校		早瀬 明日香	森 正代	篠澤 勇志	土屋あゆみ
	伊 東 商 業 高 等 学 校	太田 侑紀		中山 瑛里	吉田 美沙	
	伊 東 高 等 学 校	横倉 園枝	中村 歩美	釜田 みずき	滝口 汐利	山田 美智子
	下 田 高 等 学 校				相良 龍太郎	石井 利枝

回数		第 2 6 回	第 2 7 回	第 2 8 回	第 2 9 回	第 3 0 回
学校名		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
小学生	大川小学校 5 年					
	大川小学校 6 年	石井 拓也	稲葉 陶真	飯田 咲喜	石井 那於	飯田 大喜
	熱川小学校 5 年					
	熱川小学校 6 年	加藤 博己	土屋 花音	田村 伊織	嶋田 翔太朗	鳥澤 侑生
	稲取小学校 5 年					
	稲取小学校 6 年	高橋 大地	藤邊 光源	佐久間 祐也	太田 翔夢	梅原 千裕
中学生	熱川中学校 1 年					
	熱川中学校 2 年	萩原 歩美	石井 奈菜子	臼井 裕貴	岩崎 航大	篠原 陽
	熱川中学校 3 年	穴澤 なな子	飯田 夕稀	稲葉 義充	森 萌香	茂木 優紀
	稲取中学校 1 年	鈴木 絢子	村木 亜未香	稲葉 亜汐	鈴木 琢也	齋藤 陸
	稲取中学校 2 年					
	稲取中学校 3 年	宮崎 玲唯奈	太田 和希	山田 さくら	鈴木 綾乃	千葉 優寿花
高校生	稲 取 高 等 学 校	阿部 佳澄	竜田 匠	上柳 希	中嶋 美幸	西田 翔
	伊 東 高 等 学 校 城ヶ崎分校	川合 清香	穴澤 なな子	加藤 美里	佐藤 恭子	小野 あいり
	伊 東 商 業 高 等 学 校	奥村 美咲	木村 遥	木村 円香	加藤 百夏	石井 茉夕子
	伊 東 高 等 学 校			土屋 かおる	日下 拳	
	下 田 高 等 学 校	村木 由仁	横山 蓮	山本 伊万里		相澤 蘭
一般						

回数		第 3 1 回	第 3 2 回	第 3 3 回	第 3 4 回	第 3 5 回
学校名		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
小学生	大川小学校 5 年					
	大川小学校 6 年	茂木 洋輔	木村 優太	柚田 唯生		
	熱川小学校 5 年					
	熱川小学校 6 年	亀浦 ももか	工藤 真帆	土屋 慶音	稲葉 佳丈	高羽 雄大
	稲取小学校 5 年					
	稲取小学校 6 年	強谷 菜々美	八代 隆世	黒田 ゆき	鈴木 尚	飯田 凜音
中学生	熱川中学校 1 年					
	熱川中学校 2 年	常盤 大聖	長谷川 珠里	山本 晃己	木村 優太	
	熱川中学校 3 年	富田 夏帆	小柳 李菜	内山 結愛	藤井 菜々美	稲葉 理桜
	稲取中学校 1 年	内山 世那	宮下 旦	内山 桃華	鈴木 泰晴	鈴木 友菜
	稲取中学校 2 年					
	稲取中学校 3 年	山田 朝陽	村木 美憂	清水 悠加	前田 晃佑	井口 恋来
高校生	稲 取 高 等 学 校	山本 瑠夏	菊池 和磨	前田 雄太郎	佐藤 南星	山本 大翔
	伊 東 高 等 学 校 城ヶ崎分校	青山 今日子	小川 奈々	佐藤 彩音	太田 あゆみ	
	伊 東 商 業 高 等 学 校	山田 真治郎				
	伊 東 高 等 学 校	稲葉 夕夏		齋藤 那希		
	下 田 高 等 学 校	西田 亜美	川端 綾	米澤 凜夏	高羽 隆生	山田 龍道
一般						本多 まゆみ

回数		第 3 6 回	第 3 7 回	第 3 8 回		
学校名		令和2年度	令和3年度	令和 4 年度		
小学生	大川小学校 5 年					
	大川小学校 6 年					
	熱川小学校 5 年					
	熱川小学校 6 年	木村 真緒	野口 はな	木田 真奈羽		
	稲取小学校 5 年					
	稲取小学校 6 年	山田 薫生	鈴木 凜	鈴木 莉音		
中学生	熱川中学校 1 年					
	熱川中学校 2 年					
	熱川中学校 3 年	木村 侑和	生田目 朱莉	梅野 強		
	稲取中学校 1 年					
	稲取中学校 2 年					
	稲取中学校 3 年	石井 六花	田村 悠華	鈴木 奈都菜		
高校生	稲 取 高 等 学 校	前田 瑠花	米澤 ゆず	八代 勇渡		
	伊 東 高 等 学 校 城ヶ崎分校					
	伊 東 商 業 高 等 学 校	宮下 耀	竹内 楓	山本 ゆりか		
	伊 東 高 等 学 校			清水 朝成		
	下 田 高 等 学 校	田村 豪人	横山 海斗	進藤 寧緒		
一般			高瀬 真由			

編集・発行

第38回 東伊豆町青少年主張発表大会文集

東伊豆町 教育委員会事務局 社会教育係

TEL：0557-95-6206

FAX：0557-95-5691